



HOPE



平成 28 年(2016 年)8 月 29 日 第 61 号

◇◇◇7 月進研模試結果概要◇◇◇

各教科からのコメント・分析

<国数英総合>

表面のデータは、2 年生 7 月実施の進研総合学力テストの結果を本校の過去の同学年の成績と比較したものです。北高時代と比べても、本学年の生徒は過去 5 年間でみると最も多い人数がこの模試を受験しています。その状況でも、3 教科の平均点偏差値 45.6 と健闘していると言えます。ですがまだまだ伸びず・伸びる余地は大いにあります。国公立大（例えば信州大学）や中堅私大を目指す人は偏差値 54 を 1 つの目安と考えましょう。

11 月に実施する模試からは国数英に加えて、社会と理科も入ってきます。その意味では、国数英をじっくりと復習・対策することができるのはこれが最後のタイミングになると言ってもいいでしょう。1 年 7 月の模試から今までの成績で、伸び悩んだ科目・分野、取りこぼした範囲、うまく成果が上らない学習法など、ここでもう一度自己点検をしましょう。

<国語>

全体としては 1 年生のときと比べ点数、偏差値ともに向上しています。今回は小説・古文が良かった。これは語彙力・読解力がついてきている証拠です。それに比べ評論・漢文では差が大きくついてしまいました…。評論は「授業中自分の頭で考える」こと、漢文は「パンダの句形を反復する」ことから始めましょう。高校の国語は読書量やセンスではなく、確かな学習で決まります（もちろん読書は大切です）。「国語はやらなくていい」「漢字以外やることがない」なんて言ってないで、漢字・単語・句形を覚えること、授業の復習とそれを活かした問題演習にしっかり取り組みましょう。（河崎）

<数学>

入学時と比べて全体的に底上げされています。偏差値 54（国公立大・中堅私大）以上の累積人数が 46 人と、過去 5 年間で最多となっており、1 年次からの授業と課題への取り組みの成果が表れています。今年度は中位層の伸びが課題です。出題範囲が広がる中で、基礎をおさえ、大問の（2）まで確実に解ける力を養ってほしい。

また、GTZ で C（偏差値 40 台）の層がやや多いので、少しでも上に押し上げ、受験で数学を使えるように、授業や日々課題に地道に取り組み、基礎を積み重ねていきましょう。（近藤）

<英語>

国公立大学を志望する人が多いという観点からすると、偏差値 52 のラインにいる 13 名の人には必ずあと 2 つ上の 54 まで到達してほしい。偏差値 50 以下の人たちはまず、1 年生や 2 年生の前半で学

習したことの復習を徹底して基礎基本を定着させましょう。語彙と文法をベースの力として、読解力、表現力を高めましょう。毎日の授業や毎週のチェックテストを大切に積み重ねていきましょう。

英語は受験においては最もカギを握る科目です。そして今回の結果から判断すると、現 2 年生の今後の可能性を最も左右するのも英語です。得意な人は 100%に近い得点率を目指して、苦手な人も決して諦めることなく、投げ出すことなく取り組みましょう。語学学習は必ず努力した分だけ結果となって現れてきます。(齋藤)

長野県飯山高等学校 飯山市飯山 2610

Tel 0269-62-4175

Fax 81-1072

学年のHP <http://www.nagano-c.ed.jp/iikita/2015enter/top>